

コンセプトづくりに力を入れ、分かりやすい報告書づくり

第 20 回環境コミュニケーション大賞

環境報告大賞（環境大臣賞）

コニカミノルタ株式会社

初の応募で「地球温暖化対策報告大賞」を受賞



—「環境コミュニケーション大賞」へ応募したきっかけについてお聞かせください。

2015 年（第 19 回）に初めて応募させていただきました。それまでも「環境コミュニケーション大賞」は存じ上げておりましたが、「応募するレベルに達していないのではないか」と思い、応募しておりませんでした。2015 年時点で、G4 ガイドラインの参照や長期ビジョンの打ち出しなど、報告する内容が整理できたこともあり、チャレンジする気持ちで応募に踏み切りました。

応募すれば講評コメントなど、企業へのフィードバックが得られ、今後の報告書作成の参考にできればと思っていたのですが、1 回目の応募で「地球温暖化対策報告大賞」を受賞することができ、とても嬉しく思います。

自社の環境取組を通じ世の中にどのような価値を提供したいかというメッセージを読者に届けることが大切

—環境報告書を作成する際に、工夫している点についてお聞かせください。

マテリアリティを特定し、重点的に取り組んでいるポイントを伝えることが重要だと思っています。一つひとつの項目に対して、どのような目標設定をしているかを読者に分かりやすく伝えることも大切です。

そのために、分かりやすい言葉や文言で説明したり、図やグラフを使用するなど視覚的にわかりやすくなるように工夫しています。また、専門用語を多用してしまうと内容が分かりづらくなってしまうため、一般の読者と近い目線に立って伝わりやすさを意識しています。

環境活動は、各部門が環境に対して行っている地道な取組の積み重ねです。その上で環境報告においては、弊社の環境取組を通じて世の中にどのような価値を提供していきたいかというメッセージを読者に届けることが大切だと思っています。

—環境報告書を作成の際に苦労している点はありますか？

弊社はトップ自らが発信する環境経営の取組についてのメッセージを報告書に盛り込ん

でいますが、「今年のメッセージはどのようなコンセプトにすべきか」を決めるところが一番頭を抱えます。環境コミュニケーション大賞応募でいただく有識者の方からのフィードバックや、第三者意見でさまざまなご指摘をいただいています。なかには手をつけるのが難しいご指摘もありますが、改善できるようチャレンジしています。

現場で活動に取り組む人たちの励みに

—受賞後、社内外の反応で変わった点はございますか。

大賞をいただいたことについて、環境省主催の賞でもあり、社内でも評価されました。こういった受賞は、現場で実際に活動に取り組んでいる人たちにとってもモチベーションアップにつながります。社内イントラネットにも掲載し、一般従業員から執行役員まで幅広く共有しました。

第三者の評価をいただけることはとても貴重な機会

—今後の環境コミュニケーション大賞に求めるものなどがあればお聞かせください。

報告書に対して第三者の評価をいただけることがとても貴重な機会だと思っています。報告書を作成する際、より良いものを目指して紙面構成や内容について工夫しますが、その出来栄えに対してフィードバックをいただく機会が少ないからです。また、受賞した他社の表現手法など、優れた報告書について触れることができ参考になります。

環境報告書について学ぶこのような機会を提供してくださる環境コミュニケーション大賞をぜひとも継続していただきたいです。

—ありがとうございました。

